

大学図書館職員のためのインターネット情報源

はじめに

- 第1位 Chance It! (www.chance-it.com)
- 第2位 Yahoo! JAPAN (www.yahoo.co.jp)
- 第3位 つぼ★懸賞情報 (www.tubox.com)
- 第4位 とくとくページ (tokutoku.com)
- 第5位 プレゼント大王 (www.cup.com/present)

:

Network Wizards 社の調査によると、インターネットに接続されたコンピュータは、1999年1月の時点で、全世界で4323万台ということである。

<http://www.nw.com/zone/WWW/report.html>

また、日本国内のインターネット利用者数は、「インターネット白書'98」によると、1999年12月には、2000万人に達するということである。

<http://www.iaj.or.jp/iwb/98/html/populatn.html>

ここまでインターネットが普及してきた結果として、冒頭の順位にあるような、よく利用されるホームページが公表されている。(日経ホームページランキング)

<http://webguide.nikkei.co.jp/ranking/>

さて、本稿に課された内容は、「大学図書館職員に役立つホームページ等について紹介する」ことである。しかしながら「大学図書館職員」に「役立つ」という点では、いささか心もとない。おそらく、冒頭のプレゼントページほどは、役には立たないだろう。

- 1) WWWのイエローページではないので網羅的に紹介する訳にはいかない。
- 2) また、本号が発行されるころには、Not Foundとなっているかもしれない。
- 3) さらに、YAHOO!やgooなどの検索エンジンを使いこなす大学図書館職員にとって、目新しく役立つホームページが「まだ」あるのか? という疑問も感じる。

そこで、本稿を書くにあたり、次のような簡単な方針を決めた。

1) リンク集は、採用しない。すでに多数の大学図書館職員が、個人で立派なリンク集を作成しており、その紹介だけで、本稿の目的を果たせるほどである。しかし、ここでは、中身のあるホームページを紹介する。

2) 業務分野ごとに便宜的に分ける。分野は、筆者の所属する名古屋大学附属図書館の事務組織を下敷きにする。

では、一つでも、読者に役立つ情報があることを願って、始めましょう。

1 図書受入担当者のために

1-1 20ヶ国、今日の海外為替情報

<http://travel.yahoo.co.jp/arukikata/latest/money/info/kawase.html>

Yahoo! Travelにある旅の最新情報の一つである。月曜日から金曜日まで、毎日午前11時に更新されるトラベラーズチェックと現金の為替情報を見ることができる。販売レート(日本円→外貨)と買取レート(外貨→日本円)からなる。

洋書レートの変更のための参考資料として使える。

1-2 ブックポータル

<http://www.trc.co.jp/trc-japa/index.asp>

(株) 図書館流通センターが提供する新刊書籍検索サービスである。

書名、著者名、週刊新刊案内(金曜日の夜に更新)及び新刊書籍検索(1980年1月以降、累積件数70万件)のジャンルなどから検索でき、詳細を見れば、出版社、価格、ページ数、大きさ、NDC、件名だけでなく、表紙の写真を公開している。また、帯に書いてあるコピーや著者紹介も付いている。さらに、テスト運用中だが、内容紹介や著者紹介から検索できる関連書籍検索もある。

新刊書籍を網羅的に確認できるので、選書にも活用できる。

1-3 古書修補 松本研究室

<http://www.bunny.co.jp/kosho/>

本の修補を幅広く取扱う松本研究室のホームページである。

和漢書、洋書、近代刊本、その他の文書（絵本、楽譜、辞書、雑誌の合本など）の修補方法の説明、修補例、修補した古書の写真などが見られる。

「小辞典」は、和本の種類、洋書の構造、本を食す虫達、やさしい平綴製本など、図を多用した、わかりやすい内容になっている。

2 雑誌担当者のために

2-1 Newsletter on Serials Pricing Issues

<http://www.lib.unc.edu/prices>

1989年から、North Carolina 大学が編集している図書館で購入する雑誌価格に関するオンラインジャーナルである。

毎年、20号前後発行され、例えば、No 217 (March 13, 1999) では、Journal Citation Reports の CD-ROM 版と WWW 版との価格設定の問題を取り上げた "Pricing of Datasets on the Web" を始め、"The Price of a Journal: the Price to the Library or the Price to the User?" など 4 つの記事を読むことができる。

LISTPROC@UNC.EDU 宛てに、購読申し込みをすると、電子メールで配信してくれる。

2-2 JSTOR

<http://www.jstor.org/>

JSTOR は、1995 年に非営利機関として設立された。図書館における学術雑誌のバックナンバーの管理に伴う所蔵スペースの不足と経費の問題を解決することを目的とし、コアな雑誌のバックナンバーの電子化を開始し、現在では、117 誌が JSTOR に参加している。

最新号の電子化ではないため、電子ジャーナルの出版社とは、共存できるとされている。

ここでは、JSTOR のデモデータベースを利用することもできる。

3 目録担当者のために

3-1 目録情報に関する質問書／回答書データベース検索システム

<http://136.187.232.163/cgi-bin/websql/%7Ewebsql/release/kensaku.htm>

NACSIS-CAT/ILL 参加館から学術情報センターへ寄せられた目録システムと ILL システムについての質問とその回答を検索できる。

件名・フィールド・ファイルの各選択リストから項目を選択するか、またはキーワードにより検索する。NACSIS-CAT/ILL の基本ツール。

3-2 CATLINT: 目録のケアレスミス発見お助けページ

<http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/misc/catlint/catlint.html>

筑波大学附属図書館の近藤努氏が作成した目録作成のヘルプツール。学情書誌 ID (現在は、洋書のみ対象) を入力すると、各フィールドにわたってチェックされ、コメントが返ってくる。FAQ は、必読(?)。笑える。

3-3 e 漢字

<http://www.zinbun.kyoto-u.ac.jp/~ekanji/>

京都大学人文科学研究所の勝村哲也氏と丹羽正之氏が作成した電子漢字の研究結果の公開ページ。

JISX0221 (Unicode, ISO10646) コード、京大康熙コード、諸橋大漢和コードなど、作成した漢字フォント・データを無料公開している。

3-4 漢字袋

<http://www.kudpc.kyoto-u.ac.jp/~yasuoka/kanjibukuro/>

京都大学大型計算機センターの安岡孝一氏と安岡素子氏が共同で製作中のコンピュータ異体字典。

日本・中国・台湾のコンピュータで常用される漢字とそれらの異体字を、異体字群ごとに各ページにまとめている。日本の漢字は音訓で、中国の漢字(簡化字)は音で、台湾の漢字は総画数で検索可能である。適当に漢字を入力し、中国や台湾の字体を眺めると、漢字の国が実感できる。

3-5 ローマ字ゴシック体

<http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/misc/export/cat/goth/goth.html>

筑波大学附属図書館の近藤努氏が作成した、いわゆる「ひげ文字」のページ。yfrak、ygoth、yswab、筆記体の4つの書体と文字ごとの紛らわしい文字、バリエーションを見ることができる。

3-6 和暦変換データベース

<http://www.book-kanda.or.jp/asp/Era.asp>

神田古書店連盟が提供する和暦変換データベース。西暦→和暦の変換、和暦→西暦の変換、干支(十干十二支)による和暦、西暦の検索ができる。西暦645～1998年まで対応している。

4 閲覧担当者のために

4-1 大学図書館における身体障害者サービスのあり方

<http://wwwsoc.nacsis.ac.jp/anul/Kdtk/Rep/63/index.html>

国立大学図書館協議会身体障害者サービスに関する調査研究班報告書の第2部にあたる。大学図書館における身体障害者サービスの実態調査報告書を第1部として、第2部では、大学図書館における身体障害者サービスのあり方を研究し、その成果をまとめたものである。

なお、全国国立大学図書館長会議・国立大学図書館協議会の特別委員会などの報告書は、<http://wwwsoc.nacsis.ac.jp/anul/Kdtk/content.s.html>にある。

4-2 手話単語辞典

<http://www.ksc.ac.jp/syuwa/jiten.htm>

柏崎情報開発学院の矢嶋ゼミが作成したJavaを使ったアニメーションによる辞典。かな、英数、単語より手話を選び、Playボタンを押すと画像が動き出すので、わかりやすい。

4-3 大学図書館の建築と設備

http://www.ulis.ac.jp/library/Choken/choken1_7.html

平成10年度大学図書館職員長期研修講義要綱から、図書館情報大学の植松貞夫氏の講義内容で

ある。内容は濃い。

講義要項は、平成8年度分から、大学図書館職員長期研修のホームページ(http://www.ulis.ac.jp/library/Choken/choke_n_home.html)上で見ることができる。多彩な講師による内容は、大学図書館が直面している現状を概観する場合、貴重なテキストである。

5 相互利用担当者のために

5-1 著作権関係法令集データベース

<http://www.cric.or.jp/db/dbfront.html>

(社)著作権情報センターが編集・発行した「著作権関係法令集」(平成10年度版)を原本とし、条文単位でデータベース化したものである。

「国内法令」、「条約」をキーワードにより検索ができる。また、「附録 著作物使用料規程」なども参照できる。

「はじめての著作権講座：著作権って何？」(<http://www.cric.or.jp/hajime/contents.html>)は、Q&A形式で著作権制度の骨子が簡潔に説明されている。

6 参考調査担当者のために

6-1 レファレンス事例データベース検討WGのためのホームページ

<http://www.geocities.co.jp/Berkeley/1930/refindx.html>

九州地区国立大学電子化推進連絡会議の下に設置されたこのWGは、電子化時代におけるレファレンスサービスのあり方、レファレンス事例のデータベース化、海外におけるレファレンス事例データベースの調査・研究などを検討課題としている。

事例DBの要件・仕様など、今後の活動に期待したい。

6-2 サーチャータ試験過去問

http://www.bekkoame.or.jp/~y_usui/98test_2.html

1985年から(社)情報科学技術協会が実施し、

のちに科学技術庁認定試験となったデータベース検索技術者認定試験の試験問題（解答なし）。

「情報の科学と技術」などの出版物でも公開されているが、ここでは、1995年度～1998年度の1級、2級の問題に挑戦できる。

6-3 行政情報の総合案内

<http://www.clearing.admix.ne.jp/>

総務庁が試行運用している行政情報サービスである。

各省庁が提供している行政情報を総合的に検索する「クリアリング検索」と、各省庁がホームページに掲載している行政情報を検索する「ホームページ検索」からなる。

キーワード、省庁名、行政の分野などから検索できるが、クリアリング検索は、データ量が少なく、全文を見ることはできない。

6-4 行政情報の検索実験

<http://iosv001.cii.ipa.go.jp/>

通商産業省所管の特別認可法人である情報処理振興事業協会（IPA）が企画・運営する情報基盤センターは、3つの実証実験（新産業創造データベースセンター、パイロット電子図書館、教育ソフト開発・利用促進センター）を行なっている。

これは、新産業創造データベースセンターが提供する行政情報検索提供実験である。検索対象は、SGML化された白書類で、キーワードにより横断検索ができるが、まだ公開実験中のため、データ量、検索効率は、満足のいくものではない。

6-5 国会会議録検索システム

<http://kokkai.ndl.go.jp/>

国立国会図書館が提供する1998年1月12日～最近の衆参両院の会議録データベースである。院名、会議名、発言者名、肩書き、所属会派、キーワードにより検索できる。

7 システム管理担当者のために

7-1 JPCERT/CC コンピュータ緊急対応センター

<http://www.jpCERT.or.jp/>

JPCERT/CCは、特定の政府機関や企業からは独立して活動しており、その活動を支援するために必要な事務局を（財）日本情報処理開発協会

（JIPDEC）が運営している。

最新情報には、「不正アクセスの動向」（3ヵ月ごと）、Internet Magazine誌に掲載された記事「初心者のためのセキュリティー講座」などがあり読むことができる。特に、sendmailバージョンアップマニュアルなど不正アクセス対策のため情報が充実している。

7-2 セキュリティーセンター

<http://www.ipa.go.jp/index-j.html>

セキュリティーセンターは、情報処理振興事業協会（IPA）内にある。

最新情報には、W97M/Melissaに関する情報、ウイルスW32/Ska（Happy99）に関する情報、セキュリティー評価・認証、コンピュータウイルス被害届出状況、コンピュータ不正アクセス被害届出状況などが報告されている。

また、ウイルス対策室には、FAQ、特定日発病ウイルス「ウイルスカレンダー」、ウイルスタイプ別の簡易な修復方法、主なワクチンメーカー及びウイルス対策情報掲載Webサイト一覧などがある。

7-3 セキュリティー関連ドキュメント

<http://www.firewall.gr.jp/docs/>

セキュリティーの普及啓蒙を目的として設立された任意団体、Firewall Defenders（電脳火消隊）が提供するドキュメント。

「Windows NT システムにおけるセキュリティー管理とそのポイント」、「インターネットセキュリティー その現状と対応 -ファイアウォールの活用とその限界-」、「SPAM メールと E-mail 爆撃」など、12本のドキュメントと、ネット・ニュースで流される、セキュリティー・ホールとなるOSやプログラムの問題点に関する情報である CERT Advisory の日本語訳がリンクされている。

7-4 SIST ハンドブック 1998年版

http://www.jst.go.jp/SIST/sist00/sist_mo.htm

科学技術情報流通技術基準（SIST：Standards for Information of Science and Technology）は、情報流通を促進させるため標準化の必要性から科学技術庁により制定され、科学技術振興事業団により、見直しされている。

すでに、13のSISTが制定されており、新たに、

SIST14「電子投稿規定作成のためのガイドライン」の原案が公開されている。電子出版の流れ、電子原稿の作成方法と作成例など、学協会の編集者などを対象に作成されたものであるが、参考になる。

7-5 情報処理技術者講座

<http://www.horse-club.com/josho/>

情報処理技術者試験講座の98年春期、秋期の一種、二種、初級シスアドの問題と詳解を見ることができる。

7-6 ITトレンド

<http://www.nikkei.co.jp/cyspecial/cyber.html>

日本経済新聞社が提供するサイバー関連の最新のニュースを紹介するホームページである。日経産業新聞、日本経済新聞などの記事からコンパクトにまとめて提供している。

随時更新されるので、定期的に見ることをお勧めする。

7-7 官報に載った図書館関係の入札公告

<http://www.nul.nagoya-u.ac.jp/~okamoto/kampo/index.html>

官報政府調達公告版に載った図書館関係、電子図書館関係の入札広告を名古屋大学附属図書館の岡本正貴氏がまとめたものである。

1992年からのデータを五十音インデックスを持つ機関別索引により、検索もできる。落札業者の変遷に時代を伺うことができる。

8 庶務・会計担当者のために

8-1 きょう・あすの天気、週間予報

<http://weather.yahoo.co.jp/weather/daily/>

<http://weather.yahoo.co.jp/weather/weekly/>

Yahoo! Weatherにある。きょう・あすの天気は、北海道4地区と各県ごとに分かれている。週間予報は、全国を12の地域に分けて翌日から1週間分を見ることができる。

8-2 Mapion

<http://map.toppan.co.jp/>

住所や町名、駅名、交差点名、ビル名など目標物(ランドマーク)の名前から地図を探すことが

できる。また、地図の縮尺は、マウスのクリックにより切り替えることができる。

8-3 ゆうすけ

<http://www1.sphere.ne.jp/yjk/postal/>

郵便番号簿をマウスの操作だけで調べることができる。50音検索、番号からの逆引きの他、大学などの事業所名の50音検索、超高層ビルの階層別郵便番号なども調べることができる。

8-4 インターネットタウンページ

<http://www.townpage.isp.ntt.co.jp/>

NTT番号情報株式会社が提供する全国約1100万件の店舗情報の検索サービス。大学や官公庁も対象となっており、エリア(都道府県)、業種、店舗名(大学名も含む)、あるいは地図や路線図から検索することもでき、電話番号だけでなく、その所在地や詳細情報(地図、3D)も見ることができる。

8-5 乗換案内

<http://www.jorudan.co.jp/>

地図で検索したり、駅名を直接入力することによって、経路、所要時間、経費を検索することができる。経由駅の指定ができない、駅名のローマ字入力ができないなど制限はあるが、試用版を利用することができる。

出発地と目的地の駅名、出発日がわかっているなら、「YAHOO! Transit 駅すばあと」(<http://transit.yahoo.co.jp/>)が、軽快に検索できる。

いずれも、出張旅費計算に便利である。

8-6 Procurement Pick Up

<http://www.mpt.go.jp/Procurement/index-j.html>

郵政省が提供しているホームページで、「政府調達に関する協定」の対象となる13万SDR(Special Drawing Rights)以上の物品の調達(買入・製造・借入)手続の概要をわかりやすく説明した「契約ガイダンス」や仕様書や契約関係の「Q&A」を見ることができる。

9 管理職のために

9-1 デジタル図書館

<http://www.DL.ulis.ac.jp/DLjournal/>

「デジタル図書館」編集委員会による同誌のオンライン版で、No.1 (1994) から最新号までを読むことができる。年2~3号が発行される。

主に国内でのデジタル図書館に関わるトピックを収録しているが、最近の号では、Dublin Core Metadata Element Set、Resource Description Framework、Michigan 大学のデジタル図書館の事例などの記事もある。

9-2 「独立行政法人」とは？ Q&A

<http://www.dango.or.jp/fuj/siryoudokurituqa.htm>

全国大学高専教職員組合が1999年1月に作成した資料である。

文中の資料は、1998年11月20日に公表された「中央省庁等改革推進本部」事務局による「中央省庁等改革に係る大綱事務局原案」の中の「V. 独立行政法人制度に関する大綱事務局原案」から引用し、「検討中の『独立行政法人』の概要(案)」と中央省庁等改革推進本部本部長に宛てた「国の『財政危機』等を理由とした『国立学校』の『独立行政法人化』に反対する要求書」を参考資料として付けている。

9-3 図書館職員ハンドブック—給与・休暇等、労働条件のてびき— 1998年度版

<http://web.kyoto-inet.or.jp/org/ku-union/handbook/>

京都大学職員組合図書館職員部会が作成したものである。

賃金、勤務時間、休暇、休業、退職、女性職員の権利、研修、健康管理と安全管理、定員外職員について、わかりやすくまとめられている。

10 勤務時間外のために

10-1 本とコンピュータ

<http://www.honco.net/toc-j.html>

「季刊・本とコンピュータ」のオンライン版だが、毎月発行され、内容は一部を除いて異なっている。1998年8月創刊号から最新号までのすべて

の記事を読むことができる。

10-2 古本屋の日常

<http://www.kosho.or.jp/info/koho.htm>

山口昌男氏へのロングインタビュー、「業界の先輩に聞く」、稲垣書店主の「世紀末恥部長日記」など古書月報に掲載された記事のオンライン版である。1999年1月号から読むことができる。

10-3 Project Gutenberg

<http://promo.net/pg/>

1971年に、Illinois大学のMichael Hart氏によって始められたこの計画は、著作権の切れた1万タイトルの図書、公文書を2001年までに電子化することを目標としている。タイトル、著者名などで検索でき、テキスト形式で読むことができる。

Hart氏が、檻の棒を掴んで、“Break down the bars of ignorance and illiteracy!”と訴えている写真にあるように、この計画は、情報の公開と知識の共有を理念としている。

同様の計画は、日本でも「青空文庫」(<http://www.voyager.co.jp/aozora/main.html>)として公開されている。「青空文庫」では、著作権が切れた作品500タイトルほどを無料公開している。

おわりに

アメリカ合衆国では、1998年に、著作物の保護期間が死後95年間に延長され、Project Gutenbergは、2001年までの目標達成が難しくなっている。

大学図書館は、インターネットを情報源として利用するだけでなく、有用な教育・研究情報を提供していかなければならない。しかし、Project Gutenbergのように、インターネットを利用して、誰もが障壁のない知識の共有をはかれるようにするためには、知恵とお金だけでなく、まだまだ多くの問題がありそうだ。